

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語発達障害 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期 6,7時限他	教室名	401
担 当 教 員	小山 正	実務経験とその関連資格	京都市児童福祉センターにおいて約9年間、心理判定員、療育部門での心理セラピストを務めた。また、大学において、教育・研究活動と共に言語発達相談を行ってきた。(臨床発達心理士、臨床心理士、公認心理師)			
《授業科目における学習内容》						
言語学習過程に関する最近の研究を紹介しながら、言語獲得の過程やその評価・支援の観点について知る。本講義では、知的発達症、ダウン症、自閉スペクトラム症、発達性言語障害 (DLD, 以前のSLI) 等の障害をもつ子どもの言語・コミュニケーションの課題について取り上げ、言語獲得の前提条件や、障害をもつ子どもの言語獲得過程について知り、言語発達障害の評価・支援・言語訓練の基本を事例を通して学ぶことができる。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験 (100%) によって評価します。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
テキスト:『言語発達』小山 正 (著) ナカニシヤ出版 2018年 参考図書:『発達の理論-発達の多様性の理解と支援に向けて』小山 正 (著) ナカニシヤ出版						
《授業外における学習方法》						
①授業中に指示したテキストの箇所を読んで復習しておくこと。 ②小レポート、確認テストを課すことがあるので、授業中に提示した問題について考え、整理しておくこと。 ③各回資料以外に、まとめのプリントを配布しますので、整理に役立ててください。						
《履修に当たっての留意点》						
言語発達の過程は複雑です。まず、そのプロセスを理解していくことが、言語発達に障害をもつ子どもへの支援・訓練、それにつながる評価を行うことができます。各回の授業内容は言語発達障害をもつ事例への支援につながります。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語発達障害の原因疾患について説明できる。	テキスト第1章	テキストの「はじめに」、第1章を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	「知的発達症」「学習症」「発達性言語障害 (DLD)」について学ぶ。言語発達障害の原因や知的障害の原因疾患に関しても学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	前言語期にある知的発達症の事例への言語発達支援に向けての評価について説明できる。	テキスト第1章	テキスト、第1章1-9頁を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	前言語期の発達に関して学び、前言語期にある知的発達症の事例の評価について学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	知的発達症をもつ子どもへの象徴機能の発達評価とその支援について説明できる。	テキスト第1章	テキスト、第1章10-13-, 第2章。	
		各コマにおける授業予定	象徴機能の発達とその障害について学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語学習の認知的基盤について説明できる。	テキスト第3章	テキスト、第3章を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	この回では、言語学習に関する理論について学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害をもつ子どもの初語期の発達について説明できる。	テキスト第4章□ □	テキスト、第4章を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	知的発達症をもつ事例やことばの遅れの事例の初語期の発達について学びます。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害をもつ子どもの1語発話期の発達について説明できる。	テキスト第5章□ □	テキスト, 第5章を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	言語獲得の認知的前提について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害をもつ子どもの1語発話期におけるその言語発達支援(言語訓練)の基本について説明できる。	テキスト第5章	テキスト, 第5章を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	後の読み理解の発達とも関連がある動詞の役割, 空間語彙, 心的状態語の獲得などについて学びます。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1語発話期におけるボキャブラリースパートについて説明できる。	テキスト第6章	テキスト, 第6章を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	語彙の急増, ボキャブラリースパートに関わる発達について学びます。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	シンタクスの出現とセンテンスの発達について説明できる。	テキスト第7章	テキスト, 第7章を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	2語発話期から多語発話期の発達について理解を深め, この時期にある障害をもつ知的発達症をもつ事例などへの言語訓練における発達支援について学びます。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	初期言語学習過程における個人差について説明できる。	テキスト第8章	テキスト, 第8章を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	言語学習過程における個人差と多様性について学びます。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	他者理解の発達と言語学習の関連性について説明できる。	テキスト第9章	テキスト, 第9章を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	発達障害をもつ事例における心の理論や他者理解の発達と言語学習との関連性について学びます。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	保護者支援の基本について説明できる。	テキスト第1章11-12頁, 第7章72-73頁	テキスト, 第1章11-12頁, 第7章72-73頁を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	保護者の心情を理解することや障害受容のプロセスについて学びます。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	読みの障害とその支援の観点について説明できる。	テキスト第9章	テキスト, 第9章を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	文字言語の獲得, ディスレクシア, 読み理解の障害について理解を深めます。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語と思考との関係について説明できる。	テキスト第10章	テキスト, 第10章を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	内言の発達との関連で, 言語による思考について学びます。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	障害をもつ子どもへの言語発達支援における基本的事項について説明できる。	テキスト第10章	テキスト, 第10章を予め読んでおく。
		各コマにおける授業予定	本講義の振り返りと総括を行い, 有効な言語発達支援にむけての評価・訓練について理解をさらに深める。		